20th

古志原地区
里づくりシンポジウム

20周年記念誌

松江市古志原公民館

ごあいさつ

古志原公民館運営協議会会長
北　原　則　夫

2019年12月、「里づくりシンポジウム」が20回を迎えました。次代を担う若い人たちと、地域の人が相まみえて住みよい古志原を目指し意見を交わす「里づくりシンポジウム」。その第１回は2000年11月５日に開かれました。この日に参加してくれた小・中学生はすでにバトンを受け取るべくコースにいます。もうバトンを受け取った人もいることでしょう。みなさんがどんな未来を開いてくれるのか楽しみです。

「里づくりシンポジウム」は、松江市のふるさとづくり推進事業の助成を受けたことがきっかけとなり、始まった事業です。第１回が開催された年は、公民館創立20周年にあたる年でもありました。この事業には、青少年育成協議会会長（当時）、故野津明男さんの「古志原を子ども達のふるさとにしたい」との熱い思いがありました。以後20回まで一貫しているのは、若い人たちが描く未来をテーマに話し合おうです。

私が初めて「里づくりシンポジウム」に参加したのは、第14回「絆をつむぐまち古志原をめざして」でした。以来毎回シンポジウムに参加しています。小学生が発表する平和学習の成果や、中・高校生の地域活動を行う中で気づいたことなど、その内容はさまざまです。そんな発表の一つ一つに「古志原がこんな世界だったらいいな」という彼らの願いが込められていました。

この20年間に小学生からヤング古志原に至る若い世代の人たちから、未来に向けたさまざまな提言やメッセージが数多くあったことと思います。

2020年５月、高校生の挙げた地域の課題が一つ解決しました。いつでも命を救うために使えるAEDの屋外設置です。「ほとんどのAEDは、あっても24時間使用できない。これでは命を救えない」と課題を提示してくれた高校生は、NHKのインタビューに「自分の意見で公的機関が動いてくれるとは思ってもいなかった」と答えています。

若い人たちはどんなバトンを渡して欲しいのか。彼らの声に耳を傾け可能な限り実現していくことが、いまバトンを託されている私たちの責任でもあると思います。

里づくりシンポジウムがこの先10年、20年と続き、世代を超えて笑顔溢れる古志原の原動力となりますよう、一層のお力添えをよろしくお願いいたします。

里づくりシンポジウム　20周年の節目

古志原公民館館長
松　本　祥　一

『里づくりシンポジウム20周年記念誌』発行おめでとうございます。

また、編集委員会の皆様の英知とご尽力そして先人のご功績に心から敬意と感謝を申し上げます。

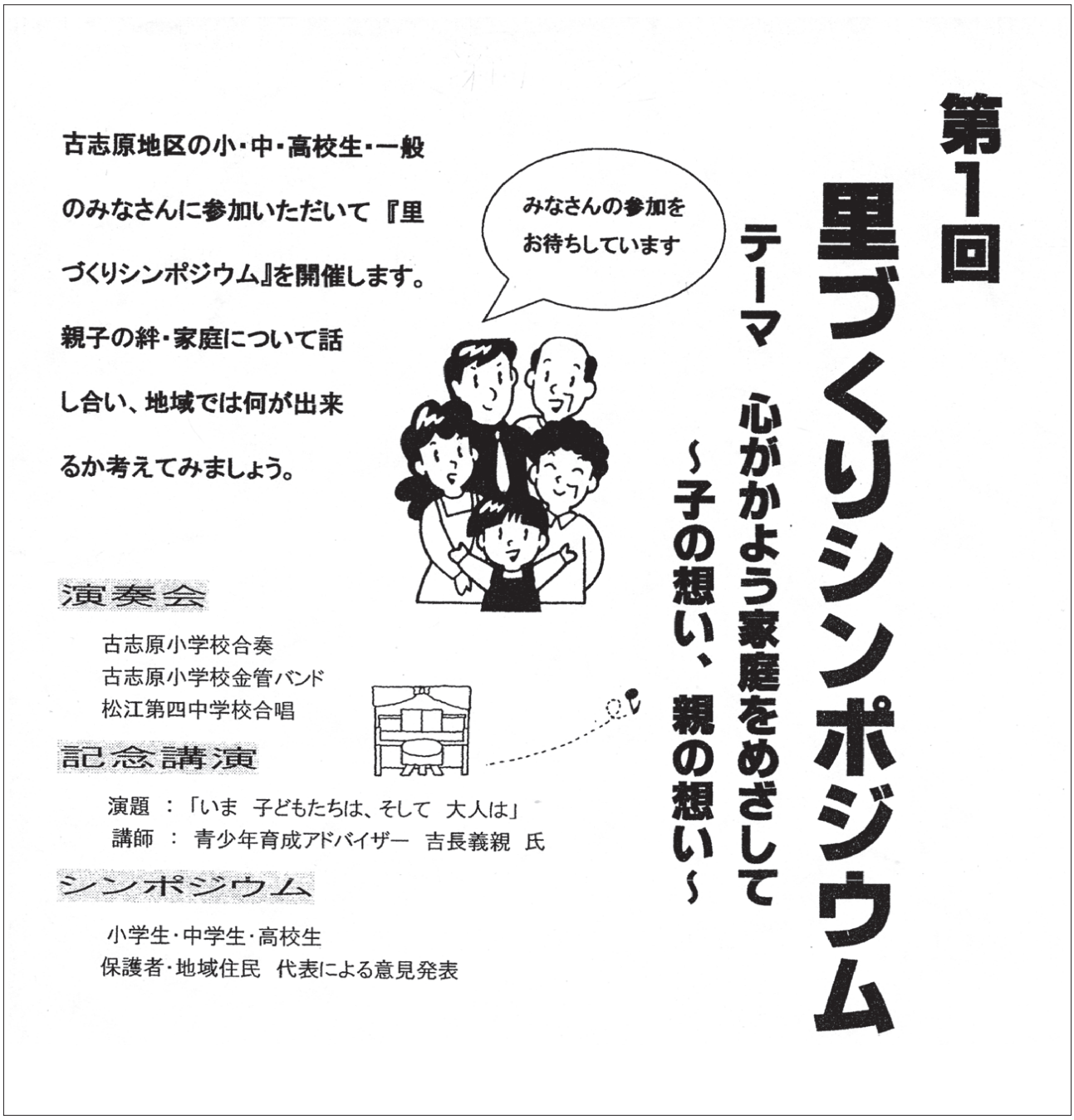
この度発行された労作には20年間のあゆみが綴られています。発足当初は、古志原の里をどのように創っていくかを語り合うことが趣旨であった様ですが、時の経過と共に内容も会場も移っています。かつては、地域の皆様やPTA、湖南中学校の生徒、松江農林高校の生徒の皆さんも発表者として登壇されていたこともあり、今とは違うプログラムで行われたこともあったようですが、私が里づくりシンポジウムを知るようになったのは古志原小学校、松江第四中学校、松江工業高校、松江南高校の児童生徒の皆さんの活動発表を基調とした形態になってからです。古志原小学校・松江第四中学校の児童・生徒の皆さんからは、学校内での活動や学んだことからメッセージが発信され、松江工業高校、松江南高校の生徒の皆さんからは古志原地区を舞台とした地域活動の実践発表や提言が述べられ、それに地域の大人たちが呼応し意見交換をするという内容のシンポジウムにスタッフとして関わらせていただきました。小・中・高校生の活動内容は地域貢献度の高いもので、それに基づいた発表はとても素晴らしく、会場にお集まりの地域の方々からも感動と感謝の意を伝える発言が続きました。

令和２年度は新型コロナウイルス感染の行方が見通せないことから、このシンポジウムを開催することはできませんでしたが、一度あゆみを止めて、これまでを振り返り、これからを見つめる機会にはなったと思います。

今後もこのシンポジウムが持続可能な事業として発展していくために、20周年記念誌を未来への羅針盤として活用させて頂き、皆様のお知恵や情熱を頂戴し一緒に素敵な古志原の里を創っていきたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

第01回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成12年11月５日（日）　13：30～16：30
2　場　所　古志原小学校体育館　　（司会　篠原　栄）
3　テーマ　『心がかよう家庭をめざして　～子の想い親の想い～』
4　内　容　（１）演奏　古志原小金管バンド
（２）合唱　松江四中生徒
（３）記念講演　　青少年育成アドバイザー　吉長　義親　氏
「いま、子どもたちは、そして大人は　～豊かな心をはぐくむために～」
（４）シンポジウム　　小・中学生、保護者、推進委員



家庭で地域で広げよう子どもとの会話

古志原地区里づくり推進委員会　委員長　**野津　明男**

古志原地区里づくりシンポジウムは、去る11月５日、古志原小学校体育館で、約250人が参加して開催しました。

このシンポジウムは、いま子どもたちの様々な現象を見る時、家庭はどうなっているのか、親子はどう向き合うのか、平成14年度から実施される学校週５日制をにらみながら、地域で何が必要なのかを考え、話し合おうと開いたものです。

そして、３月と６月に開いた「中学生と語るつどい」を発展させ、小学生から高校生、お父さんお母さん、お年寄りの方まで幅広く集まって頂きました。

古志原地区里づくり推進委員会は、中学生や高校生をはじめ、幼稚園から各学校（小学、中学、高校）、PTA（小学、中学）、自治会連合会や地域団体など、20の団体及び立場からの代表で構成し、７月に設置したもので、話し合いをつみ上げてきました。

「心がかよう家庭をめざして。子の想い、親の想い」をテーマに記念講演とシンポジウムを内容としたものでした。

記念講演は、島根県青少年アドバイザー協議会会長吉長義親先生に「いま子どもたちは、そして大人は」と題してお話を頂きました。

シンポジウムは、メインテーマで小学生、中学生、小学校PTA、中学校PTA、及び青少協の各々の代表をパネリストに意見交換をおこないました。

意見の中で、小学６年生は「自分を支えてくれる人の大切さに気づいた」中学３年生は「家庭内暴力は、その家庭だけの問題ではなく、地域の連帯が大切」だと発表しました。

各々の代表から、子育てについて夫婦のあり方、家庭、地域の問題など率直な意見が出されました。

先般、推進委員会は反省会を開きましたが、その中で高校生から「地域の人と話し合うことが大事だと思った。もっとやってほしい」との意見がありました。

推進委員会は、中学生や高校生が多く参加できる環境をつくり、話し合いの場を継続していきます。（いずれ「報告書」を作成し、今後に活かして頂くようにします。）

◆ シンポジウムパネリスト

司会
篠原　栄さん

推進委員長
野津　明男さん

古志原小　６年
山根　礼子さん

松江四中　３年
佐々木一美さん

古志原小保護者
野島　哲子さん

松江四中保護者
稲垣　長郷さん

古志原小金管バンド演奏

松江四中生徒合唱

第02回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成13年11月11日（日）　13：30～16：00
2　場　所　古志原小学校体育館　　（司会　岡田志恵美）
3　テーマ　『みんなで語ろう、未来の古志原』
4　内　容　（１）記念講演　　湖東中学校バスケットボール部監督　高橋　千治　氏
　　「全国制覇に至るまで」
　　（２）シンポジウム　　小・中学生、保護者、推進委員

◆ 記念講演

全国制覇に至るまで

高橋　千治

昨夏、湖東中学校男子バスケットボール部は第31回全国中学校バスケットボール大会において念願であった地元での「全国制覇」を達成することができました。

バスケットボールは今や野球、サッカーと並ぶメジャーなスポーツとなり、競技人口も多く、全国では簡単に勝てない状況下となりましたが、高い理想と目標を掲げ、また多くの方々のお力添えをいただきながら、さらには日頃のひたむきな取り組みが実り、このような快挙が達成できたのだと確信しております。

13～15歳の中学生といえばまさに思春期の真っ只中にあり、様々な興味を抱き、外見を着飾って自己アピールしたがる年頃であります。また、通信網の発達や報道の自由等により、とかく辛く苦しいことから逃れ、その場限りの楽しさを追求したくなる年頃でもあります。その気持ちは、誰しも少しは持っているのではないかと思います。

しかし、人間がひたむきに、そして歯をくいしばり一生懸命に物事に取り組む姿は、見る人の心を感動させ、勇気と希望を与えてくれるものであります。スポーツはまさに見る人の心を感動させ、夢と希望を与えてくれるものだと思っております。

生徒たちは「日本一」という大きな目標に向かって日々努力してまいりました。気になる頭髪も全員がスキンヘッドで気持ちを集中させるとともに、バスケットボールに青春を費やしてきました。その毎日の努力が報われ、最高の結果を残せたことは、この上もない喜びであると同時に周囲の人たちにもスポーツの素晴らしさを再認識させてくれました。

とかく青少年の暗い話題が多い時勢ですが、なんともすがすがしい頼もしい生徒たちに囲まれ、本当に充実した幸せな日々を過ごせたことに喜びを感じています。

今後も、このような感動が味わえるよう、私自身も努力・精進していきたいと思っています。

● 講師プロフィール

現職　松江市立湖東中学校・教諭
　　バスケットボール部監督
バスケットボール選手として、松江四中、松江工業高校、日本体育大学社会人まで、インターハイ、インカレ、国体等々で活躍。
また、指導者として、県大会、中国大会、全国大会に出場するチームの育成。さらには、今年８月島根県にて開催された、中学生全国大会では、湖東中男子バスケット部全国制覇という偉業を達成。

◆ シンポジウム

司会
篠原　栄さん

地域で楽しく夢を語り合いたい
古志小PTA　井上　昌明さん

身勝手に人の人生を狂わしてはいけない
松江四中　狩野　篤司さん

子どもにシャンとした食生活を
湖南中PTA　古志　勝俊さん

体力づくり、毎日が大事
湖南中　小倉　睦美さん

社会体育、親と先生が一体で
松江南高PTA　津田　高史さん

部活は授業で学べない事を学ぶ場所
松江南高　井上　美紀さん

住んでる所でふれあい活動を
青少年育成協議会　野津　明男さん

バスケットボール優勝めざしたい
松江工高　久保田清志さん

第03回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成14年10月19日（土）　13：30～16：30
2　場　所　古志原小学校体育館　　（総合司会　岡田志恵美、シンポジウム司会　稲垣長郷）
3　テーマ　『中・高校生と大人のトークショー』
4　内　容　（１）演奏　古志原小金管バンドクラブ
　　（２）実践発表　地域代表３名（渡邊　繁、渡部昭久、竹谷　強）
　　（３）意見交換　中・高校生

◆ 実践報告　― 地域における実践活動 ―

環境問題
生活環境保全推進員　渡邊　繁さん

総合司会
岡田志恵美さん

ボランティア活動
古志原ボランティアの会　会長　渡部　昭久さん

フロアーの様子

学校開放
古志原小学校　校長　竹谷　強さん

フロアーの様子

◆ シンポジウム

シンポジウム司会者

稲垣　長郷さん

パネリスト

松江四中
佐名木美穂さん

松江工高
樋野　裕太さん

湖南中
山田　千賀さん

松江南高
佐々木一美さん

古志原を離れて感じること

九区出身（東京在住・当時松江南高２年）　**佐々木一美**

私は、中学高校生の頃、子供からお年寄りの方まで、皆がより住みやすい古志原のまちづくりを目的とした様々な地域活動に参加させていただきました。大人の方々と中学生が語るつどいで意見交換会を開催していただいたのが始まりで、古志原公民館で定期的に行われていた集会に参加させていただいたり、今年の２月で12回目を迎えたと聞きましたが、里づくりシンポジウムの推進委員として第一回から四年間参加させていただきました。

古志原という「まち」についてざっくばらんに意見交換をしようというテーマを持っており、そういった機会は普段なかなかないもので初めてのことで緊張しましたが、お菓子とお茶を囲んでみれば楽しいおしゃべり会に変わっていました。中学生だった当時は気づきませんでしたが、成人した現在振り返ってみると、そういった機会を設けることで、実は目的を達成していたのではないかと思います。大変充実した時間だったことを思い出します。

現在は仕事のため上京して東京で生活を送っておりますが、これらの地域活動の経験から古志原を離れてみて、「そういえば古志原ではあんなことがあったなぁ」と思い出すことがあり、より地元の良さを感じます。古志原には、各組ごとに親睦を含めた集会があり、古志原の運動会があり、古志原には近所付き合いというものが普通のこととしてあったなぁ……と、ふと思うことがあります。やはり、去年の東日本大震災後、特に感じるようになりました。東京全部がそうだと一概には言えませんが、日本全国津々浦々から集まっているので、古志原のように「幼少期から知っている人」という感覚を持ちにくく、近所の方と接する機会がなく、なかなか難しいことではないかと思います。

反面古志原は、人の温かさを感じる機会が多いので、自然と住みやすいまちになっているのではないかと思います。

第04回 古志原地区里づくりシンポジウム

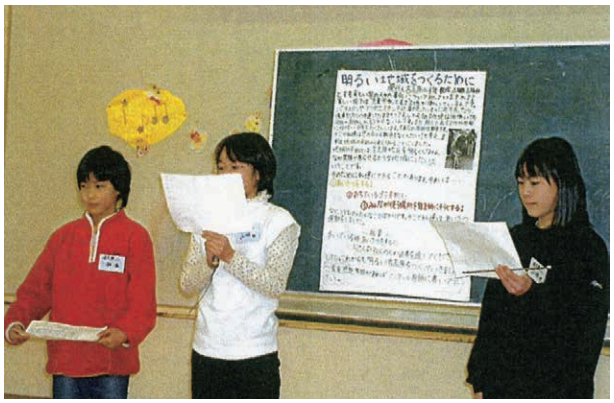
1　日　時　平成16年２月14日（土）　11：00～13：00
2　場　所　古志原幼稚園遊戯室　　（総合司会　篠原　栄）
3　テーマ　『今感じていること・そしてこうありたい』
4　内　容　（１）演奏　サックス四重奏
　　松江南高１年生４名（森田洋子、小早川結花、細田麻実、竹内明美）
　（２）実践発表　古志原小、松江四中、湖南中、松江工高、松江南高
　（３）フリートーク　（司会　稲垣長郷）
　（４）バンド演奏　松江工高生徒２名（土江　卓、福田裕太）
　（５）意見交換
　（６）会食・懇談

中学生・高校生を
含めた推進委員会で
シンポジウムの内容について
事前の打ち合わせ

◆ 当日の様子

おにぎり・豚汁の準備

サックス四重奏　松江南高



意見発表　古志原小

意見発表　松江四中

意見発表　松江南高

意見発表　松江南高

バンド演奏　松江工高

会食時の意見交換

第05回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成16年11月27日（土）　10：30～13：30
2　場　所　古志原幼稚園遊戯室　　（司会　岡田志恵美）
3　テーマ　『古志原地区が住みよいまちになるために』
4　内　容　（１）実践発表
①挨拶運動を進めて　松江四中PTA（篠原　栄）、松江四中生徒（今村彩夏、金子知美）、松江四中教員（千原敬史）、古志原小PTA（川上　大）
②子どもの安全を守る活動　（子どもの安全を守る連絡会　竹谷　強）
（青少年育成協議会　稲垣長郷、　網代郁雄）
③地域の活性化を図る活動　（２区　深田光男、津田博尚）、（８区　毛利郁雄）
（２）意見交換
（３）会食・懇談

古志原地区が住みよいまちになるために

里づくり推進委員会　委員長　**野津　明男**

恒例になりましたこの会は、11月27日㈯に古志原幼稚園を会場にして開催。小・中学生を含めて150名を超える参加者がありました。

第５回を迎えて、これまでの諸団体等の取り組みを発表し、活動をいっそう充実させていくことをめざした会にしました。

①あいさつ運動をすすめて

第四中学校と古志原小学校から挨拶運動を進めていった経過や成果、課題などが発表されました。

四中校区の幼稚園、小学校、中学校は、挨拶を重点に取り組んでおり、その成果は、生徒の姿に現れているということでした。

小学校でも、十分ではないが、クラスごとに競い合って挨拶をしていると報告。

保護者や地域の方からも「夜間、雨の中、中学生に挨拶してもらって元気が出た。」「転居してきて、子どもから挨拶されてびっくりした。」「挨拶カードに丸をつけるのは効果的だ。」子どもからも「劇をしたりして、挨拶を呼びかけている。」「校門で挨拶をしても、返してくれない人がいるのが残念。」など多くの意見がありました。

実践発表　松江四中

大人がどう声をかけるかが大切だという意見にうなずく人が多くいました。

②子どもの安全を守る活動

子どもが被害者となる犯罪が多発しています。古志原でも子どもの安全を地域で守る連絡会ができ、青少年育成協議会やパトロールママの会、自治会連合会など多くの団体がパトロールなどを実施していることを報告。みんなで子どもの安全を守る意識を高め、下校時などに子どもを見守ることを話し合いました。

実践発表　網代　郁雄さん

③地域の活性化を図る活動

２区は「夏祭り」について、８区は［天神みこし］の取り組みについて、その由来や運営、成果などを発表しました。これらは非常に参加者も多く、成果

が上がっている。活動を通して、子どもたちはもとより大人の絆が深まり、地域活性化に大いに役立っていることが伺えました。

話し合いの後、おにぎりと豚汁でなごやかなひと時を過ごしながら、地域のことを大人も子どももみんなで考える有意義な機会になったことを喜びました。

実践発表　津田　博尚さん

実践発表　川上　大さん

実践発表　竹谷　強さん

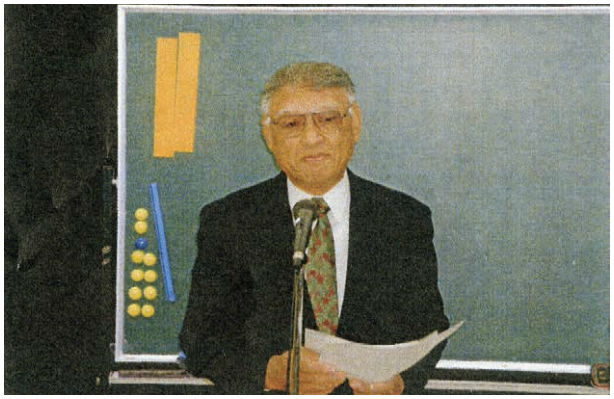
実践発表　千原　敬史さん

フロアーからの意見

会食（豚汁）・懇談

第06回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成17年11月27日（土）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（総合司会　川上　大）
3　テーマ　『古志原地区が住みよいまちになるために』
4　内　容　（１）子どもの生の声を聞くコーナー
①あいさつ運動その後　　松江四中PTA・生徒、古志原小PTA・児童
②中学生の主張　松江四中３年　阿部昌代
③実践発表　松江四中、湖南中、古志原小
（２）地域の実践発表
①「子どもの居場所づくりの推進」　富原子ども広場代表者
②「地域の安全・安心活動」　地域安全推進員会、防犯交通対策協議会、子ども安全会
③「若者の居場所づくり」　古志原ドリーム会、古志原太鼓会
（３）意見交換
（４）会食・懇談



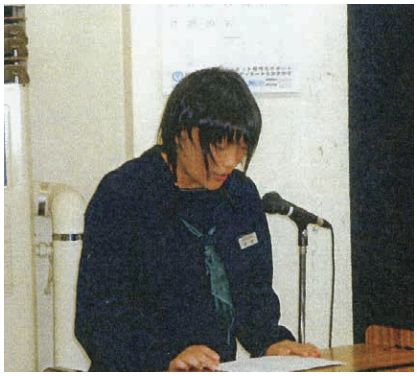
主催者あいさつ　野津　明男推進委員長

総合司会　川上　大さん

会場全体

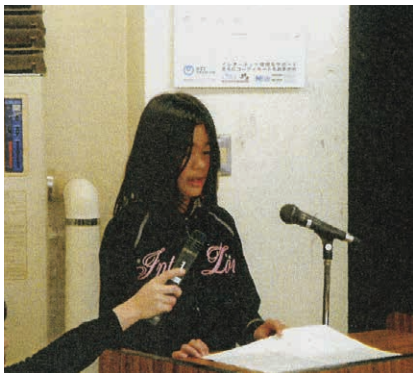
◆ 「子どもたちの生の声」を聞くコーナー

古志原小



松江四中

松江四中



松江四中

古志原小

湖南中

◆ 地域の人から実践発表

富原子ども広場
澤　弘吉さん

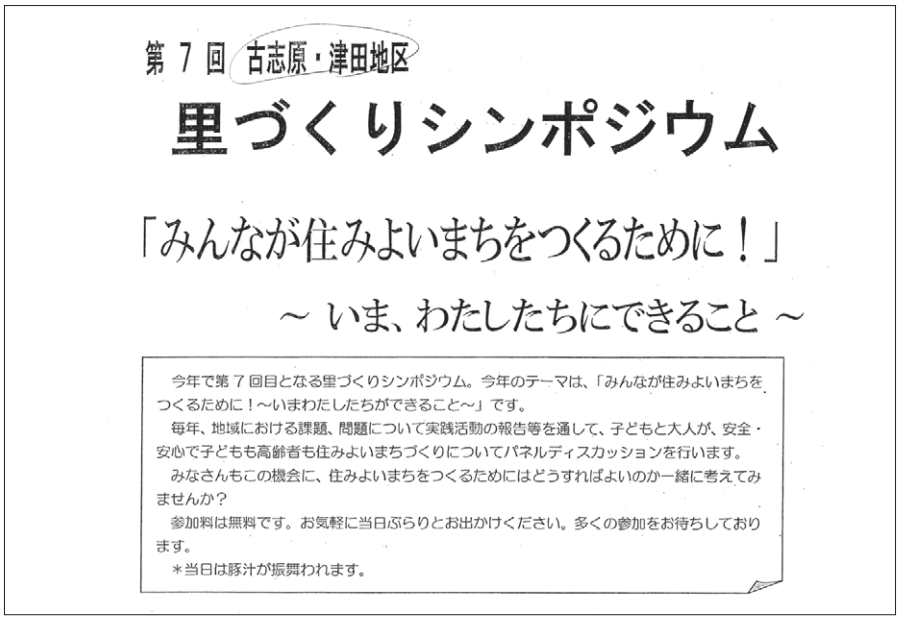
青色回転灯巡回活動
長田　和雄さん

古志原ドリーム会
熊谷　泰治さん

古志原太鼓会
井上　昌明さん

第07回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成18年12月10日（日）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　竹谷　強）
3　テーマ　『みんなが住みよいまちをつくるために　～今私たちにできること～』
4　内　容　（１）意見発表　古志原小６年　武田侑子
（２）パネルディスカッション　（コーディネーター 公民館長　竹谷　強）
宮脇　凌（湖南中３年）、浅野航平（松江四中３年）、神田幸成（松江工高３年）、
若槻文子（子ども広場コーディネーター）、角　純二（古志原小PTA）
（３）意見交換
（４）会食・懇談


第７回 古志原・津田地区
里づくりシンポジウム
「みんなが住みよいまちをつくるために！」
～ いま、わたしたちにできること ～
今年で第７回目となる里づくりシンポジウム。今年のテーマは、「みんなが住みよいまちをつくるために！～いまわたしたちができること～」です。
毎年、地域における課題、問題について実践活動の報告等を通して、子どもと大人が、安全・安心で子どもも高齢者も住みよいまちづくりについてパネルディスカッションを行います。
みなさんもこの機会に、住みよいまちをつくるためにはどうすればよいのか一緒に考えてみませんか？
参加料は無料です。お気軽に当日ぶらりとお出かけください。多くの参加をお待ちしております。
＊当日は豚汁が振舞われます。

第７回「里づくりシンポジウム」に参加して

網代　郁雄

古志原地区の活性化を願い、より安全で住みよい地域づくりを目ざしての「里づくりシンポジウム」は、平成12年に取り組みが始まり、第７回目となる今回は、津田地区との共催事業として、昨年12月10日、古志原公民館を会場に、両地区から80名ほどの参加者を得て開かれました。

小学生代表の意見発表や、中・高校生、小学校PTA、地域代表による「あいさつ」を切り口としての意見発表や「こども広場」からの実践報告がなされました。

いずれも、日常の生活体験にもとづく発表で、迫力も説得力もあり、今回のテーマ「みんなが住みよいまちをつくるために」～いまわたしたちにできること～に沿っての積極的な取り組み姿勢や熱い思いが伝わってきました。

意見や報告に耳を傾けながら、あらためて、「地域づくり」は、つまりは「人間関係づくり」であり、そのためには、お互いに、相手の立場や思いに配慮できる「心のゆとり」を失うことなく、信じ合い、認め合い、支え合い、鍛え合いながら、ともに手を取り合って歩みたいものだとの思いを深めたことでした。

◆ 受付

◆ 意見発表

古志原小　武田　侑子さん

◆ パネルディスカッション

◆ 会食・懇談

第08回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成20年１月26日（土）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　澤　弘吉）
3　テーマ　『青少年の輝く地域づくり』
4　内　容　（１）演奏　松江四中吹奏楽部
（２）実践発表
①八雲ジュニアサポーターズクラブ
②松江工高　加地拓未、森本研太、坂本竜也
（３）意見交換
（４）会食・懇談

◆ 開会行事

◆ 松江四中吹奏楽部演奏

◆ 実践発表の様子

◆ 実践発表（２）松江工高生徒

私たちのボランテイア活動

人のため・自分のため

ボランテイアで学んだこと

島根県立松江工業高等学校
加地拓未、森本研太、坂本竜也

子ども広場でこんなことも

子ども広場の楽しさ‥ふれあい

古志原子ども広場の楽しさ

学年の枠を超えて集い、友達が増える
自分で選択して過ごせる。
多様な遊びができる。
大人と交流し生活の智恵が学べる。
※ボランティアが楽しくできる。
「ほっとできる」「自分で選べる」
「多様な遊びができる」「交流できる」

学んだこと

ボランティア活動をしてわかったこと
「情けは人のためならず」
交流する楽しさ
子どものかわいさ
スタッフの対応（気遣い）
喜んでくださる方々
待ってくれる子どもたち
お礼をもらった

第８回「里づくりシンポジウム」に参加して

中筋　弘充

去る１月26日、古志原公民館において開催された第８回「里づくりシンポジウム」に参加しました。私はこれまでにも、この会に何回も参加していますが、毎回新しい企画が取り入れられるなど、有意義な会となっていることを感じます。

今回のこの会の中で、特に心に残った若い皆さんからの発言二つと、私が思っていること一つを述べてみます。

①「**楽しいから活動している**」

今回、八雲ジュニアサポーターズクラブの皆さんや古志原ヤングボランティアの松江工業高校生徒さんからの実践発表がありました。その中で、若い皆さんから、「活動することが楽しいからやっている」との発言に、私は、なるほど、そうか、とうなずいていました。

②「**大人の方から声を掛けてもらうと、やる気になる**」

昨年のこの会でも、松江工業高校の生徒さんから、「あいさつは大人の方から先に掛けてもらうと、こちらもやりやすい」とか、今回も、「ボランティア活動を始めたのは、先生や公民館長さんなど大人の方から話しかけがあって、自分もやってみようと思ったからだった」との発言がありました。私たち大人の方から先に働きかけをすれば、大抵のことはうまくいくのではないかと思いました。

③「**この会のすばらしさを、もっともっと言い触らそう**」

今回、ある方から、「今日来て見て、大人の出席者の少ないことに驚いた。折角の機会だから、もっとたくさんの人が参加したいものだ」との発言がありました。私も同感でした。今後、多くの皆さんに参加してもらうために、これまで以上にこの会への案内を積極的に行うと共に、この会に１回でも参加したことのある者が、会のすばらしさを、もっともっと言い触らしていくことが大事だと思いました。

第09回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成21年３月21日（土）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　小川　正）
3　テーマ　『住みよいまちをつくるために　～今わたしたちにできること～』
4　内　容　（１）クラリネット三重奏　　松江四中　上橋、田部、持田
（２）講演　宍道・来待公民館長　藤原　進　氏
「定住、公民館にできること」
（３）実践発表
①「中学校と地域の連携について」　松江四中　門脇　遙、山根徹平
②「ビオトープの改修と環境整備」　松江工高３年　小室大輔
③「子ども広場に参加して」　松江農高３年　錦織将人、田中一也、青山孝寛
（４）意見交換
（５）会食（カレーライス）・懇談

◆ オープニング

クラリネット演奏　松江四中生徒

◆ 主催者あいさつ

あいさつ　野津明男推進委員長

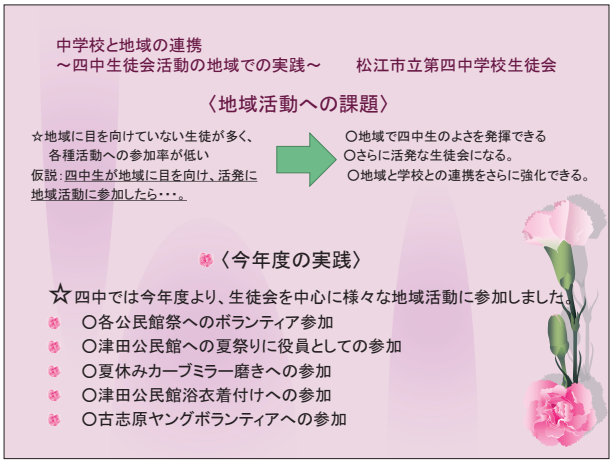
◆ 講演

講演　松江市宍道・来待公民館長　藤原　進　氏

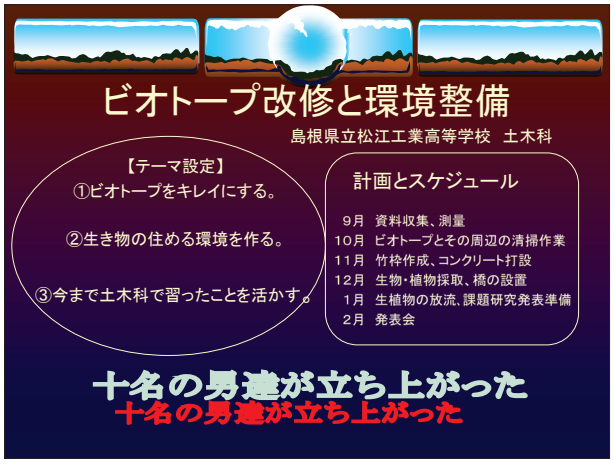
意見交換

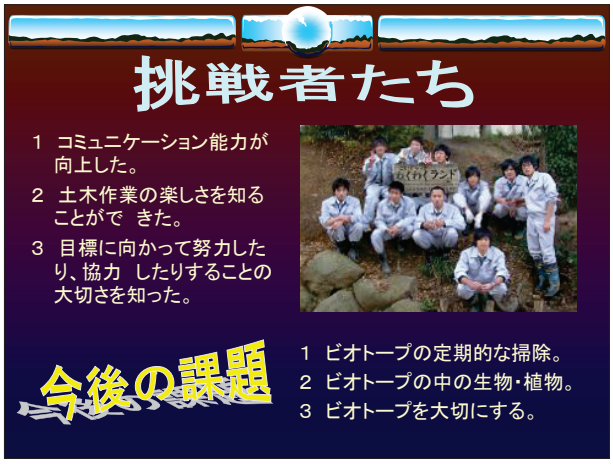
◆ 実践発表

①「中学校と地域の連携について」　松江四中生徒

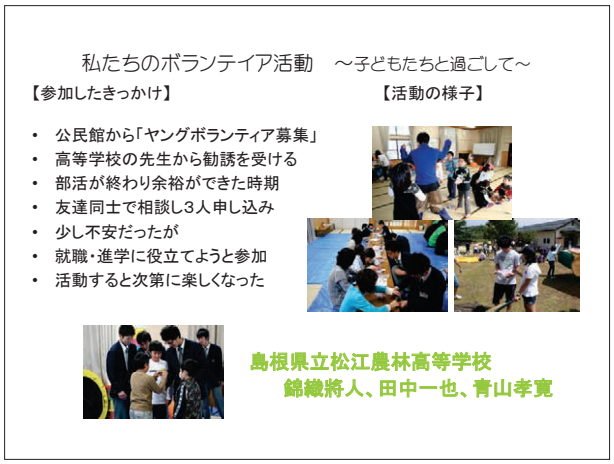


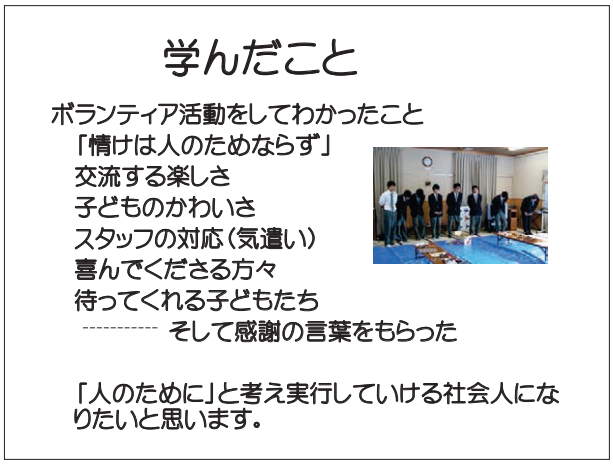
②「ビオトープの改修と環境整備」　松江工高生徒





③「子ども広場に参加して」　松江農高生徒





第10回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成22年３月22日（月）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　岡田志恵美）
3　テーマ　『心かよいあうまち古志原をめざして』
4　内　容　（１）実践発表
①「校区の変更について」 湖南中　山本優葉、北村奈織香、西條由利恵、森脇那奈
②「地域との交流の軌跡とこれから」 松江四中　石倉綾花、石田駿斗、柏井香都
③「古志原地区での活動を振り返って」
1「保育実習を終えて」 松江工高　電子科　井口智哉
2「ビオトープ清掃について」　〃
3「古志原小学校の校庭改修について」　〃
4「電気と福祉」　松江工高　電気科　大國真也
④「古志原こども広場に参加して」 松江農高　錦織　唯、土江優貴、岸本沙記
（２）意見交換
（３）会食（カレーライス）・懇談

今年度の基本方針

＊松南ブロックふるさとづくり推進事業の一環として津田・古志原地区合同で開催。

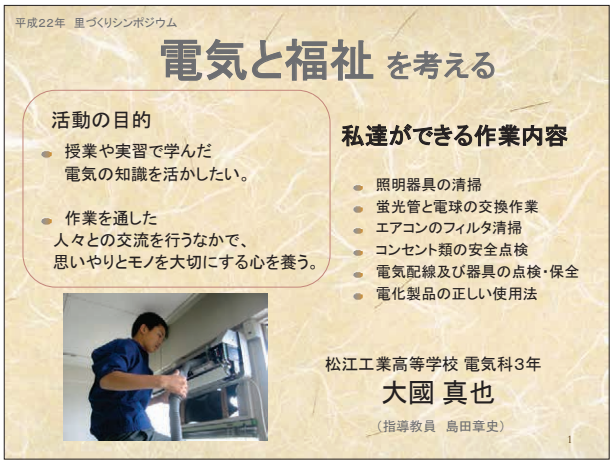
＊青少年の地域活動を中心に課題を出し合い、解決の方向を探る。

＊優れた地域活動をしている青少年の実践発表をもとに、まちづくりについて話し合う。

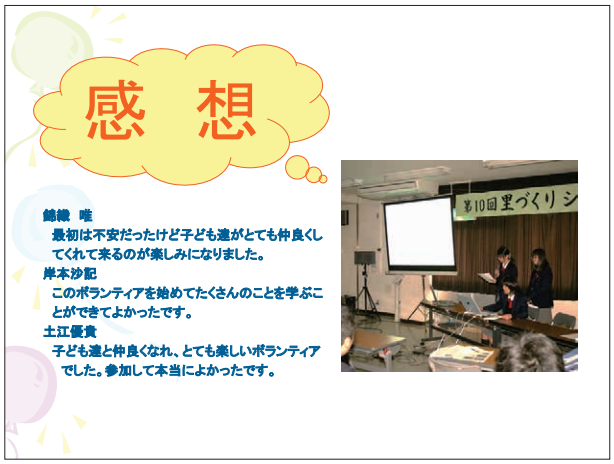
①　「校区の変更について」湖南中生徒

②　「地域との交流の軌跡とこれから」松江四中生徒

③ 「古志原地区での活動を振り返って」 松江工高　電子科　生徒
「電気と福祉」 松江工高　電気科　生徒



④ 「古志原こども広場に参加して」松江農高



◆ 会場の様子

第11回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成23年２月27日（日）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　松本卓也）
3　テーマ　『心かよい合うまち古志原をめざして』
4　内　容　（１）演奏　吹奏楽アンサンブル　湖南中生徒
（２）実践発表
①「湖南中学校について」 湖南中生徒会役員
②「生徒会ボランティア」 松江四中生徒会役員
③「地域との連携活動」 松江工高　電気科、建築都市工学科、機械科
④「子ども広場に参加して」 松江農高　錦織　唯、土江優貴、岸本沙記、遠藤凛子
（３）意見交換
（４）会食（ご飯・豚汁）・懇談

吹奏楽アンサンブル　湖南中

実践発表　湖南中生徒会

「里づくりシンポジウム」に参加して

松江工高　３年　清田　　海
３年　笹岡　大義

私たちは、「第11回古志原地区里づくりシンポジウム」に参加しました。この里づくりシンポジウムは、主に地域の学校の生徒が中心になって行ったボランティア活動の内容について発表をしたり、新たな課題を出し合い議論する場として設けられているものです。

まずは、里づくり推進委員長の野津明男さんの開会の挨拶と、湖南中吹奏楽部の素晴らしい演奏で開始されました。その後、各学校がそれぞれのテーマに沿って実践発表をし、意見交換会、会食・懇談を行い閉会しました。

実践発表では、まず湖南中の学校行事についての紹介がありました。「スッカラカン大会」という給食の残り少なさを競うものや、体力錬成など、生徒たちが高い意識をもって取り組んでいると感じました。次に、松江四中の生徒会の生徒たちのボランティア活動に関する発表がありました。幼稚園に出向いて園児に読み聞かせをしたり、古布集めやカーブミラーの清掃など、地域に住むたくさんの人たちに役立つ活動をしていると思いました。３番目は松江工高の発表で、課題研究を通しての地域との関わりの実践発表でした。機械科の出前授業では、おもちゃ作りを通して、子供たちと触れ合うといった活動をしたり、電子科では、アクシデントで消えた古志原地区の「黄色いポスト」を製作したりと、地域に役立つ活動に取り組んでいることを発表されました。

最後は、松江農高の発表でした。月・土の週に２回開かれる「子ども広場」に参加して、自分たちが思ったことや、感じたことが紹介されました。ペッ

トボトル工作でのものづくりの楽しさや、そうめん流しなどを通してみんなで楽しむことの大切さを理解できたとのことでした。私たちは、子ども達の将来にとって、このような体験をさせることは、とても大切なことだと思いました。

全体を通しての感想は、どの学校も「ボランティアは、相手じゃなく、自分も得るものがある！」ということを感じさせる発表内容で、聞いている側も、『すごい！』と思わせるものばかりでした。私たちは３月で高校を卒業しますが、「古志原里づくりシンポジウム」に参加して得たことを、これからの人生に活かしていきたいと思います。

松江農高　３年　土江　優貴
３年　錦織　　唯
３年　岸本　沙記
１年　遠藤　凛子

私たちは、２月27日に行われた里づくりシンポジウムに発表者として参加しました。各校今までの活動の成果を発表しました。どこも共通していたのは地域に密着したボランティア活動を行っているという点です。私たちも古志原公民館の子ども広場でボランティア活動をしてきました。初めはボランティアというものに固苦しいイメージがありましたが、いざ始めてみると気軽にでき、ボランティアをやる側にもプラスになるものが沢山あるということを知りました。私たちもそうですが、他の発表者も達成感と共に人に感謝される喜びというものを感じていました。

私たちがそうだったように、ボランティアというのはどこか固苦しく自分達には遠い存在と感じている方も少なくないと思います。しかし、決してそんなことはなく誰にでも出来ることです。自ら進んで地域のゴミ拾いをしてみることも立派なボランティアの一つです。周りにはボランティアの力を必要としている人は沢山います。今、ボランティアに参加しようか迷っている人は是非、参加してみてください。

地域参加者　６区　苅田　保則

●生徒の話しの中から

「ボランティア活動をするという考えは全くなかったが友達に誘われて参加してみた。」「大人達と一緒になって私は何をすればよいのか戸惑う気持で一杯だった。しかし、親切に教えられたり、励ましを受けたり、また友達がいて与えられたことが無事にできたときは、ホッとすると同時にうれしかった。」「これからも、ぼくは参加して見ようと思った。」

これらの言葉には大変重いものがあると思う。それは、自分の居場所があったのでこれからも参加してみたいという心が芽生えたことである。

古志原地区で八年間も続いている子どもの居場所づくり事業「子ども広場」は中・高校生のボランティア活動に対する居場所づくりにもなっている。それには指導者の方々が“また参加しよう”と思えるように親切な指導・環境づくりがあればこそと思える。

●実践発表から

里づくり（町づくり）をするのに、“何をしたら”人々の心を寄せることが出来るか、近隣の人との付き合いが希薄する中で、ましてや中・高校生の参加を求めるのは至難とされるとき、学校では授業の一環としてボランティア活動参加が組み込まれております。これがきっかけで地域に参加した時に大人から後押しの声掛けや教えを受けこれからも機会を見つけて“またやろう”と思ったと発表。これを地域も大いに取り込んで学校や学生の意見が反映される活動を見つけねばと思いました。

●意義をもう一歩前へ

折角休日に開催されたにもかかわらず中・高校生の子育て年代の参加が少なく思えた。我が子と同年代の子ども達が参加する、実践発表する、語り合う姿を見て聴いて感じ参考にして親子が一緒になり公民館、区、自治会等の行事に参加できれば地域は勢いづき、町づくりがいっそう進むものと思えます。この会の意義を一歩前進させるために皆んなで協力し努力していかねばと思いました。

第12回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成24年２月25日（土）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　小川　正）
3　テーマ　『心かよい合うまち古志原をめざして』
4　内　容　（１）サックス四重奏　松江四中生徒（吉岡祐里、稲田芙佑子、冨永芙実、森山怜美）
（２）実践・意見発表
①「湖南中の現状と今後の取り組みについて」 湖南中生徒会役員
②「松江四中の現状と今後の取り組みについて」 松江四中生徒会役員
③「地域ボランティアの推進」 松江工高　建築都市工学科、
「古志原子ども広場のボランティア活動」 松江工高（中島拓也、客野尊命）
④「あいさつ運動を進めて」 松江四中校区あいさつ運動実行委員会　中筋弘充
（３）意見交換
（４）会食（ご飯・豚汁）・懇談

中学生も豚汁の準備

松江工高生徒の発表

松江四中生徒によるサックス演奏

フロアーからの質問・意見

松江四中生徒の発表

会食（ご飯・豚汁）・懇談

さわやかなあいさつが飛び交うまちに

四中校区小中一貫教育
地域推進協議会
会長　中筋弘充

一「小中一貫教育」の推進

松江市で行われている「小中一貫教育」は、小中学校の教職員が義務教育（小学校入学から中学校卒業まで）の九年間を見通し一貫した教育に共同して当たり、子ども一人一人にしっかりと力をつけることを目的に行われています。

松江四中校区でも、津田小・古志原小・松江四中の教職員の皆さんが、強い連携のもとで「小中一貫教育」を進めておられます。お陰で、子どもたちは地域でお互いを兄弟姉妹のように感じながら生活しています。また、四中校区内の各団体の代表など三十四名で組織した「四中校区小中一貫教育地域推進協議会」も、子どもたちの健やかな成長を願って学校を応援する活動を積極的に行っています。

二「四中校区地域あいさつ運動」を始めることになったきっかけ

「四中校区小中一貫教育」の一場面として、例えば、四中の生徒たちが、学期に数回、母校である津田小や古志原小を訪れ、登校してくる小学生たちと元気よくあいさつし合っています。

その小学生や中学生が、「地域でもこのように子ども大人もみんなが元気よくあいさつがし合えたらいいな！」と思い、願っていることを、「四中校区小中一貫教育地域推進協議会」の会合の折に小中学校の校長先生方から聞きました。すぐに協議会のメンバーから、子どもたちの思いに応えようではないかとの発言があり、全員一致で「四中校区地域あいさつ運動」を始めることになりました。

三「四中校区地域あいさつ運動」のめざすもの

あいさつは形に表さないと相手に通じません。今回の「四中校区地域あいさつ運動」は、次の二つのことをめざしています。

①道などで人に出会った時には、元気にあいさつをし合いましょう。

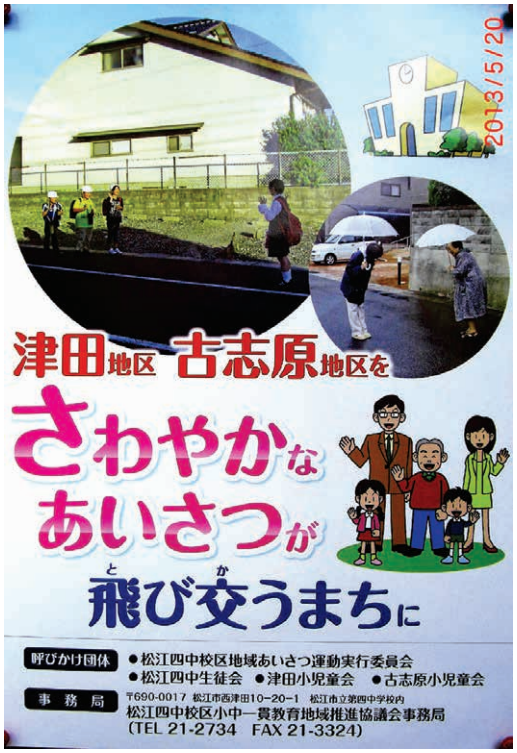
ちなみに、今回のあいさつ運動のスローガン・合言葉は「津田地区・古志原地区を　さわやかなあいさつが　飛び交うまちに」です。

②下の写真のポスター（昨年十一月以降に、四中校区内各家庭あてに関係する保育所・幼稚園・小学校・中学校から子どもさんを通して、また、公民館からは各自治会への配布物と一緒に、それぞれ発送されています。なお、ポスターが新たに必要になった場合には、学校、公民館、又は「四中校区小中一貫教育地域推進協議会事務局」へ連絡いただければ何らかの方法でお届けします。）**を家や職場で外から見える場所に貼ることにより、子どもたちの熱い思いから始まった「四中校区地域あいさつ運動」に賛同し応援していることをアピールしましょう。**

ちなみに、このポスターは四中校区内の各家庭の他に、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、公民館、交番などにも掲示をお願いし、地域挙げてのあいさつ運動の推進にご協力いただいています。

今後は、校区内の官公庁や商店などへポスター掲示のお願いをしようと考えています。

地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



四「四中校区地域あいさつ運動」に関する情報、提案、意見などお寄せください

この「四中校区地域あいさつ運動」について、地域で積極的に活動していただいている方・団体などの情報や皆様方からの提案、要望、意見など、「四中校区小中一貫教育地域推進協議会事務局」までお寄せいただければ喜びます。

◇四中校区小中一貫教育
地域推進協議会　事務局
〒六九〇―〇〇一七
松江市西津田一〇―二〇―一
松江市立第四中学校内
TEL 二一―二七三四
FAX 二一―三三二四

第13回 古志原地区里づくりシンポジウム

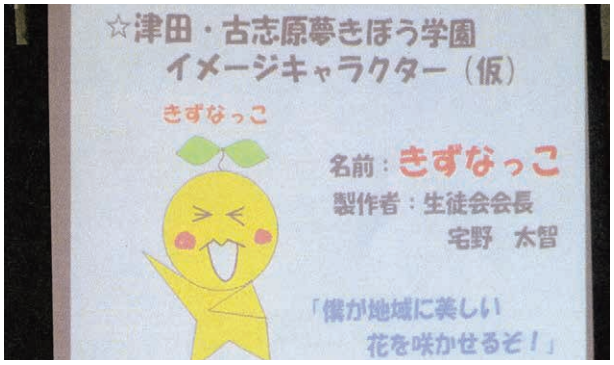
1　日　時　平成25年２月23日（土）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　松本卓也）
3　テーマ　『絆をつむぐまち古志原をめざして』
4　内　容　（１）吹奏楽演奏　松江工高吹奏楽部
（２）実践・意見発表
①「あいさつで広げる地域との絆の輪」　松江四中生徒会役員
②「松江工高の地域活動」　松江工高
③「校庭芝生化のこれまでとこれから」　芝生化委員会　家島　滋
（３）意見交換
（４）会食（カレーライス）・懇談

松江工高吹奏楽部の演奏

松江工高生徒の発表

松江四中生徒の発表

芝生化委員会家島さんの発表



松江四中生徒の発表資料

フロアーからの意見

古志原地区里づくりシンポジウムに参加して

松江四中生徒会　**淺野菜称美**

私は、今日の古志原里づくりシンポジウムに参加してよかったと思います。

理由は、三つあります。一つ目は、地域の人たちと交流ができてよかったからです。日頃からとてもおせわになっている地域の人たちと四中、地域について話すことができ、あいさつについて、四中への思いなど聞くことができ、貴重な機会になりました。二つ目は地域の人からいろいろなアドバイスをもらったことがうれしかったからです。例えば「あいさつ運動」や「屋台」などについてとても参考になるアドバイスをもらいました。三つ目は、地域の人に四中のよいところを知ってもらえたからです。この企画がなかったら私たち四中のとりくみを知ってもらえませんでした。

この企画のおかげで地域の方々との交流の大切さなど私はいろいろなことに気づくことができました。これからも、地域の方々と共にすばらしいあいさつの花を咲かせていきたいと思います。まだまだ、課題がありますが、まずは、四中からがんばっていきたいと思います。

里づくりシンポジウムに参加して

松江工高　１年　**口村　雄大**

先日、里づくりシンポジウムに寮生として参加しました。オープニングは、本校吹奏楽部が出張公演で披露した演歌の演奏を行い、ほのぼのとした雰囲気の中でスタートしました。吹奏楽で演歌というなかなか聞くことができない組み合わせと、東日本大震災復興のメッセージを込めた演奏で、参加されたご年配の方々の心に響いてくれたと思います。

松江四中の生徒会の発表では、中学生があいさつ運動に力を入れていることが分かりました。また、大勢の人前でも、自分の考えや思いをはきはきと述べていました。それだけ四中をよくしようと思っているんだと強く感じました。その中で、マスコットキャラクターを取り入れていることはいいアイデアだと思いました。

僕たち寮生が時々使わせていただいている古志原小学校の校庭には芝生が生えていますが、その芝を植えるのに多くの方々の協力があったことは知らなかったので驚きました。これからも、子供たちが安全に走りまわれる環境が確保されるようにして欲しいです。

これから２年間、古志原の方々にお世話になりますが、自分たちも古志原の一員とし、または松江工業高校の一員ということを意識して生活していきたいと思います。

芝生の校庭は地域の宝もの

校庭芝生維持管理委員会　**家島　　滋**

「絆をつむぐまち古志原をめざして」をテーマに開催された『第13回古志原地区里づくりシンポジウム』で、小学校校庭の芝生化について発表する機会を頂きました。

松江市と松江市教育委員会の提案で始まったこの事業は、子ども達の体力向上・生涯スポーツの推進、砂ぼこり防止と景観美化、そして地球温暖化防止などのねらいに加え、校庭の芝生化を通した「里づくり」もねらいとしています。

初年度の植栽活動には、児童・生徒と保護者・教職員の皆様に加え、各地区自治会・各種団体の皆様、一般住民の皆様など約3,000人もの人の力が結集されました。

学校・地域が力を合わせて取り組んだこの活動は素晴らしい取り組みです。

さらに、散水・肥料散布・芝刈りといった維持管理活動は、地域ボランティアの皆さんの力に支えられています。

グリーン・キーパーと呼ばせていただいているこれらボランティアのお力と、校庭を使用する皆様の温かい見守りのお蔭で、芝生は年々根を張り、緑の色を濃くしていっています。

一部に水はけがよくない場所がありますし、たくさんの車を乗り入れることがあるため、芝が傷むこともありますが、今後皆さんのお知恵やお力をお借りして、いっそうよいものに改善していきたいと思います。

子ども達の活動場所であり、地域住民の交流・交歓の場でもある校庭の芝生を、今後いっそう地域の宝として守り育てていきたいものです。

赤ん坊がハイハイしたり、子ども達が裸足で気持ち良く走り回ったりする姿を思い描きながら……。

第14回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成26年２月16日（土）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　寺津豪佐）
3　テーマ　『絆をつむぐまち古志原をめざして』
4　内　容　（１）箏曲演奏　松江南高　箏楽部
（２）実践・意見発表
①「ボランティア精神で広げる地域の輪」　松江四中　生徒会役員
②「笑顔の島根を作るために」　松江工高２年　植田敬助
③「今、僕たちにできること」　松江南高　JRC部員（青山　拳、斉藤和樹）
④「子どもたちとの交流を進めて」　古志原ボランティアの会　渡部昭久
（３）意見交換
（４）会食（カレーライス）・懇談

発表したみんなが素晴らしかった里づくりシンポジウム

古志原小PTA会長　**寺津　豪佐**

里づくりシンポジウムをご存じですか。青少年の地域活動への参加促進を目指した行事です。第14回目の今年は「絆をつむぐまち古志原をめざして」のテーマにふさわしく、地域の中高生や、高齢者の方が、実践してきたことや研究の成果を発表しました。

私は進行役だったので、発表したみんなを一番近くで見ることができました。みんな堂々としていて素晴らしく、古志原にある学校はすごいと思いました。この子たちを地域で誉めて育ててやっていただきたいと、強く思いました。

「今どきの中高生もやるじゃないか」そして「高齢者のパワーもすごいじゃないか」という感想に尽きるシンポジウムでした。参加させてもらったことに感謝いたします。

箏曲演奏　松江南高箏楽部

大切な意見交換

松江四中生徒会　**日野　史敬**

古志原地区里づくりシンポジウムに参加して、印象に残ったことが二つあります。

一つ目は、南高校や工業高校の先輩方の発表です。高校生の発表は、とても内容が細かく、目的がはっきりとしていました。僕はそれを聞いていて、感じたことは常に「自分から」という姿勢で目的に向かって取り組んでいるということです。それらを聞いて、改めて積極性などの自分には足りないものを見つけることができました。

二つ目は、参加者の方からたくさんの意見をいただいたことです。今回は、いろいろな地域の皆さんから意見をいただきました。どの年代の方たちも、あたりまえのようなことをいいことだと語っておられました。ここで僕は、前四中生徒会長があたりまえにこだわった理由が分かり、「あたりまえ」の大切さを知ることができました。

笑顔の島根をつくるために

松江工高　２年　**植田　敬助**

先日行われた里づくりシンポジウムで、私は「笑顔の島根をつくるために」というテーマで、意見発表をさせていただきました。島根県の抱える大きな問題である人口減少を食い止めるために、病院・介護・保育を一貫して行うことができる福祉システムを県内各地に普及させ、弱者に優しい地域社会を目指すという内容です。

今回の発表内容は、人口減少について取り上げましたが、高齢化社会や、過疎化など、他にも様々な問題を島根県は抱えています。

この里づくりシンポジウムを通し、大人の方々はもちろん、学生達が、若いうちから自らの故郷について学び、知っていくということは、本当に大切なことだと思います。この催しで意見や発表内容を、地域全体で共有していくことができたことは、私達生徒にとっても、大人の方々にとっても、非常に良いものになったのではないでしょうか。

高齢者が身近な存在であり、このシンポジウムのように交流が豊かである点から見れば、高齢化社会は、島根の長所になっていくのではないかと、今回の里づくりシンポジウムを経て考えることができました。

今、ぼくたちにできること

松江南高　**青山　　拳**
斎藤　和樹

僕らは「小さなことを少しずつ積み重ねていけば必ずいつか世界は変わる」この言葉を胸に日々活動をしています。たとえ、一人では出来ないことがあっても、周りのみんながいればそれは必ず出来る。そのために、一人でも多くの人に自分達の思いを聞いてもらうことが大切だと思います。それを聞いてくれた人が、自分も何かをしようと一歩を踏み出してくれれば一番嬉しいです。それが小さな子どもであっても、大人であっても行動に移すことが大切なのです。そして、その活動を地域から始めることが一番重要だと思います。まずは地域単位の活動から始め、そしてその活動を広げたらと思います。

僕たちはこれからずっと地域に根ざした活動を続けていきます。そして私たちの住む町がもっともっとよい町になるように頑張っていきたいと思います。

ボランティア

古志原ボランティアの会　**渡部　昭久**

◎茶飲み話から

『ボランティアは、人のため世間一般のために、自ら進んで　様々なことについて、奉仕することだげな』

このことは、すべての根底に生きていると感じています。

◎支援活動の実際

ボランティアは決して肩肘を張らないことです。個人相応の支援活動を見つけ次第実行することです。「してあげる」ではなく「させていただく」ことさえ忘れずに……皆さん共々、はげむよう呼びかけたいと思います。

第15回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成26年12月17日（日）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　小川　正）
3　テーマ　『絆をつむぐまち古志原をめざして』
4　内　容　（１）合唱　松江南高　合唱部生徒
（２）実践・意見発表
①「ピースアクション（平和学習から）」　古志原小６年生
②「東京都江戸川松江四中との交流など」　松江四中　生徒会役員
③「家庭クラブ委員会の取り組み」　松江工高　家庭クラブ委員会
④「JRC活動報告」　松江南高 JRC部員
（３）意見交換
（４）会食（カレーライス）・懇談

カレーライス作り

松江南高合唱部

古志原里づくりシンポジウムを通して 地域の方々への感謝

松江四中生徒会長　武田　陽汰

今回の里づくりシンポジウムは、僕達にとって２回目の参加でした。１回目の時は、まだ生徒会役員になったばかりで何をすればよいのかも分からず、先生方の力を借りて、先輩方が行ってこられた生徒会活動について発表しました。

しかし、今回は１年間僕達が行ってきた活動の中から、「江戸川四中との交流」と「らるたん成長プロジェクト」について、自分たちの力で発表の準備をしてきました。「江戸川四中との交流」については、文化祭で発表したということもあり、スムーズに行えました。「らるたん成長プロジェクト」では、成長し、つぼみができた「らるたん」の初披露をしました。この「新らるたん」の着ぐるみは、地域ボランティアの方々や公民館長さんなどたくさんの方々が協力して作ってくださいました。

これからも、このシンポジウムを通して、地域の方々への日頃の感謝や、僕達が行っている活動を知ってもらえたら良いと思います。

古志原小６年生

松江四中キャラクター「新らるたん」

松江工高家庭クラブの発表

松江南高JRC部の発表

フロアーからの意見発表

第15回古志原地区里づくり シンポジウムに参加して

8区　**若槻　文子**

今年も、里づくりシンポジウムが12月にあり、4校の児童・生徒による発表がありました。

古志原小6年生は、平和学習で学んだことをもとに、修学旅行で行った広島で、大きな声を出して募金活動をしたことを紹介。

松江四中生徒会は、東京都江戸川区立松江四中を訪問し、交流した映像を紹介。今後は、相手校が松江市を訪問する予定があることや、IP電話等を活用し、交流を深めていくこと等を紹介。

松江工高は、家庭クラブと古志原地区の高齢者とが、お雑煮や、ちまきづくりをとおして、互いに交流を深めたことを紹介。

松江南校JRCは、人のため地域のためにできることを考えて近隣のこばと保育園と交流を続けていることや、エコキャップを集めワクチン注射の基金にする取り組みをしていること等。4校の取り組みが子ども達によって発表されました。

私は、第6回からこの会に参加していますが、年々、発表内容が充実してきており、各学校と地域の連携が深まっていることを感じます。ここ近年、学校関係の参加者も多くなってきており、地域への関心の高さを感じます。

私自身、理解し合いたい、もっと知りたいと思う良い学びの場となりました。そして、この古志原の取り組みのすばらしさを、多くの地域住民に知らせたい気持ちになりました。今後は、若者や女性の参加者を積極的に増やすことが不可欠であろうと思いました。

今年、再創部された南高校の合唱部の演奏は、馴染みの曲で、ゆったりとした気分にさせてもらいました。また、この会の参加者のために、美味しいカレーライスをつくってくださった皆さん、ご馳走さまになりました。

次回も、誘い合って、是非参加したいと思う会でした。

会食・中学生がカレーライス盛り付け

会食（カレーライス）・懇談

第16回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成27年12月13日（日）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　勝部浩司）
3　テーマ　『絆を紡ぐまち古志原をめざして』
4　内　容　（１）合唱　松江南高　合唱部生徒
（２）実践・意見発表
①「今を、平和から考える」　古志原小６年生
②「地域に向かって行っているボランティア活動」　松江四中　生徒会役員
③「松工住まいいきいき隊の活動」　松江工高　家庭クラブ委員会
④「JRC部活動報告」　松江南高　JRC部員
⑤「Young Kosibara time Line2015」　ヤング古志原　三島洋平
（３）意見交換
（４）会食（カレーライス）・懇談

司会をして

青少年育成協議会　会長　**勝部　浩司**

第16回「里づくりシンポジウム」は、松江南高校合唱部のクリスマスソングの素晴らしい歌声で開幕しました。

つづいて、古志原小、松江四中、松江工業高校、松江南高校、そして働く青年グループ「ヤング古志原」の五つの団体が、実践活動を中心とした素晴らしい発表を行いました。

各グループともに、しっかりとした考えのもとクオリティの高い素晴らしい活動の様子を、映像等を交えて紹介しました。初めて見聞きした活動の様子に、驚きと賞賛の空気が会場に漂いました。

合唱　松江南高合唱部

地域とのつながりを感じた時間

松江南高合唱部　部長　**福田　麻由**

私たち合唱部は、２年前に長い間休止していた活動を当時の２年生によって再開させました。

私たちの初舞台は学園祭でした。部員の多くは合唱経験が無く、大勢の人の前で歌うのはとても緊張しました。本番はあっという間でしたが、楽しんで歌うことができ、また、歌うことの楽しさを感じました。

４月になり、部員が増え、合唱部は以前よりにぎやかな雰囲気になりました。

そして、合唱部を再結成してから２年目の夏、私たちは二つの大きなコンクールに出場しました。夏休みのハードな練習を乗り越え、迎えた本番は、自分たちのベストを尽くしたいい演奏になりました。また、他校のレベルの高い演奏を聴くことができ、合唱部にとって貴重な体験となりました。

この里づくりシンポジウムに参加させてもらったことで地域とのつながりを感じました。とても有意義な時間となりました。

シンポジウムで学んだこと

松江四中生徒会　副会長　**早水　　涼**

今回の古志原里づくりシンポジウムで、僕たちが経験したことは、大きく二つあります。

まず一つめは、普段、校内で発表することが多く、地域の方に向けて発表することはあまり多くは

行っていませんでした。しかし、今回それを経験して、誰かに発表することの難しさ、そして楽しさを知ることができて、とても良い体験となりました。

二つめは、地域の方の意見を聴けたことです。小学校や高校など、普段あまり関わることのできない人の意見を聴いたり、ヤング古志原の皆さんの活動を聴いて、今まで知らなかった活動などを知り、お互いの活動に興味を持つ良い機会となりました。

里づくりシンポジウム初参加

松江工高建築都市工学科　３年　**安達　未菜**

里づくりシンポジウムが始まり、南高さんの合唱や古志原小学校の女の子達の平和についてなど、学校ごとの活動内容などを知ることができ、良かったです。四中では、生徒会活動が活発で、地域で挨拶していたりと、地域での活動をしていて素晴らしいなと思いました。

私は、発表し終わった後に質問や感想コーナーがあり、

「ありがとうございました。」

と言ってもらったり、

「うちもやってもらえますか？」

と言っていただけてすごく嬉しかったです。今まで活動の中で感謝していただいたり、すごく喜んでもらったりと嬉しいことばかりでした。どのように恩返しするのかと考えたところ、掃除を懸命にすること、この場で成果を発表することだと思いました。会食の時も、

「どのようなことしてるの？　草取りして、また生えてきたら２、３回行くの？」

などの質問をされました。私にとっては、そのささいなことが嬉しく、里づくりシンポジウムに行き、発表できて良かったです。

古志原シンポジウムに参加して

古志原小　６年　**三浦かおり**

私達のクラスでは、２学期の総合的な学習の時間に「今を平和から考える」をテーマに、学習に取り組んできました。現在の課題として、「今ある自然を壊さないために」「日本と外国の関わり」「世界中の子どもたち」「いじめについて考えよう」の四つの課題について学習をしました。

私は、「世界中の子どもたち」について学習しました。その中でも特に私は、子供兵士について調べました。日本では、子供が兵士になることはありえないので、子供兵士については知らないことがたくさんあったけど、調べてみて様々なことが分かってよかったです。

私達の考える平和は、「だれもが楽しく、心豊かに暮らすことができる」ということです。これまで「平和」という言葉は遠いところにあるように感じていましたが、この学習をして身近な課題だと感じることができるようになってきました。

古志原小学校でも地域の皆様には、登校や行事などいつもお世話になっていて感謝しています。あいさつなど、私達にできることはしっかりやっていかないといけないと感じています。

里づくりシンポジウムに参加して

ヤング古志原　会員　**坂本　恭平**

一人では中々一歩を踏み出せずにいましたが、約１年半、古志原地区の活性化と自己実現を目的とした若者団体である「ヤング古志原」のメンバーとして公民館まつりや通学路の清掃活動などに参加してきました。今回のシンポジウムでもたくさんの取り組みがありました。一方で、地域活性化はとても大きな問題で、「一人一人が問題意識を持って話し合っていく」という答えのない答えばかりに行き着くのかもしれません。

将来、自分の進路を決めていく児童・生徒のみなさんは、県外へ出る人や地元に残る人さまざまだと思いますが、シンポジウムで発表された素晴らしい活動を糧に頑張ってもらいたい、地元に残るなら一緒に活動していけたらと感じました。

会食（カレーライス）・懇談

第17回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成28年12月17日（土）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　岡田志恵美）
3　テーマ　『絆を紡ぐまち古志原をめざして』
4　内　容　（１）ハンドベル演奏　古志原子ども広場６年生（６人）
（２）実践・意見発表
①「平和学習から」　古志原小６年生（５人）
②「生徒会の地域活動を考える」　松江四中　生徒会役員（９人）
③「松江工高の地域交流活動」　松江工高　家庭クラブ（４人）
④「JRC部活動報告」　松江南高 JRC部員（２人）
⑤「Dream of Kosibara」　ヤング古志原　高橋直子、三島洋平
（３）意見交換
（４）会食（カレーライス）・懇談

ハンドベル演奏　古志原子ども広場児童

平和学習から

古志原小　６年　山根　誼子

６年生では、二学期の総合的な学習の時間に「平和」をテーマに学習に取り組んできました。「里づくりシンポジウム」の当日は、「原子爆弾の恐ろしさと悲さんさ」と「領土問題」について発表しました。まず、米原真志さんと遠所悠樹さんが、「原子爆弾の恐ろしさと悲さんさ」について発表しました。原子爆弾の大きさや重さ、被害、原子爆弾がもたらした病等を伝えました。発表の終わりには、次のように感想を言いました。

「ぼくたちは、平和記念公園での見学や学習を通して、より深く原子爆弾の恐ろしさや悲さんさを知ることができました。ぼくたちがこれからできることは、学んだことを伝えること、そして、核兵器をこの世界からなくすようにうったえ続けることだと思います」

次に、私と森山春音さん、野村瑠音さんの３人で「領土問題」について発表しました。竹島や北方領土等について、調べたことを伝えました。発表の終わりには、次のように感想を言いました。

「これからの領土問題は、とても難しい問題ですが、解決するために、これからできることがあるのではと、考えました。一つ目は、スポーツを通して、交流を深めること、二つ目は、お互いの国の文化や歴史をもっと深く学ぶこと、三つ目は、領土問題をこれからも学び続けることだと思います」

このシンポジウムで、多くの方に発表を聞いていただき、とてもよい経験になりました。

生徒会の地域活動について

松江四中生徒会　樋口ひなた

先日の「里づくりシンポジウム」に参加させていただきました。特に印象に残っているのは、ヤング古志原の発表です。アメリカのオレゴン州の町づくりについて聞き、とても興味を持ちました。話を聞いていて古志原では若い人たちが自分たちの町のために動いているのを知

り、すごいと思いました。

私たち四中生は「ボランティア精神で広げる地域との絆の輪」という題で四中生徒会の活動を発表させていただきました。今年度はBELIEVEというスローガンで活動し、主な活動ではペットボトルキャップ集めやプルタブ集め、地域での活動では様々な行事などに参加したことを発表しました。私は今回のシンポジウムは２度目の参加で、１度目は先輩の発表についていくカタチでしたが、今回は私が先輩として参加したので別の緊張がありました。「里づくりシンポジウム」では、とてもいい経験ができました。

工業高校の地域交流活動について

松江工高家庭クラブ　陶山　侑平

僕たちは本年度「食を通して地域と繋がろう」というテーマで活動してきました。今回は、本年度おこなった活動の中から、主に二つの活動について発表しました。

一つ目は夏におこなった“こばと保育園”でのそうめん流しについてです。松工生と古志原ボランティアの会の皆さんで青竹を割り、流しそうめんの台を作って園庭に設置しました。竹を割るのも設置するのも思った以上に大変でした。けれど、古志原ボランティアの皆さんに教えてもらいながら何とか完成させることができました。

二つ目は、工業高校の文化祭でおこなった古志原小学校の子どもたちとの交流についてです。家庭クラブでは小学校の２、３年生を招きクッキー屋さんをしました。スノーボールクッキーを一緒に作り、校内で販売することで親睦を深め、工業高校のことも知ってもらいたいというのが、今回の目的でした。子どもたちはクッキーを丸めたり焼いたり、ラッピングをしたりと作業を進めていくうちにおしゃべりもはずみ、楽しそうに活動している様子が見られて良かったです。子どもたちと一緒に活動することは、普段はあまり経験できないことで、僕たちにとっても新鮮で楽しい時間でした。

発表が終わった後は地域の皆さんと一緒にカレーライスを食べながらいろいろな話が出来て良かったです。部活のことや政治の話などでとても盛り上がりました。

松江南高校JRC部活動報告

松江南高JRC部　副部長　山田　果奈

JRCとは、ジュニア・レッド・クロスの略称で、青少年赤十字という意味です。JRC部は、日々の生活の中にある問題に「気づき」解決策を「考え」、そして「実行する」をモットーに活動しています。

私たちは、松江駅やショッピングモールなどで行われる募金活動や、こばと保育園訪問、ペットボトルキャップ集めなどのボランティア活動を行っています。

今回、「里づくりシンポジウム」に参加して驚いたことは、様々な学校や団体の皆さんが地域のため、里づくりのためにたくさんの工夫がなされた活動をしておられることです。地域の方々と楽しく懇談し、とても良い時間を過ごすことができました。

Dream of Koshibara

ヤング古志原会員　高橋　直子

今回の「里づくりシンポジウム」でヤング古志原から、アメリカ・オレゴン州ポートランド市の事例を交え古志原のまちづくりについて発表させていただきました。

ポートランドは全米で住みたい街№１として知られています。また、住民自治が中心のまちづくりで成功した街です。住民一人一人が参加するネイバーフッド・アソシエーション（Neighborhood Association）という近隣自治組合を創設し、市民自身が問題について解決策を議論し、決定し、策定・推進しています。

私が今回ポートランドのまちづくりを取り上げたのは、古志原も住民が地区に対する意識が高く、様々な団体が各々の問題に取り組んでおられます。そういった思いや取り組みは共通であり、ポートランドの事例を参考にすることで、これからの古志原の課題解決に生かしていけるのではないかと考えたからです。

人に任せるまちづくりではなく、みんなでとことんアイデアを出し合い、議論し、つくっていくことにより敬意を持てる街をつくりあげることができると思います。まちをつくるのは、自治体ではなく、主人公は住民です。今後もヤンコシの活動に励んでいきたいと思います。

会食（カレーライス）・懇談

第18回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成29年12月16日（土）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　加藤伸孝）
3　テーマ　『みんなが住みよいまち古志原をめざして』
4　内　容　（１）あいさつ　野津明男　推進委員長
（２）実践・意見発表
①「平和な世界をつくっていくために わたしたちにできること」
古志原小６年生代表（３名）
②「地域交流で心つながる四中輝く」　松江四中　生徒会役員
③「松工住まいいきいき隊活動報告」　松江工高　建築都市工学科（３名）
④「今年度の活動報告」　松江南高 JRC部員
⑤「変化」　ヤング古志原　岩崎辰海
（３）意見交換
（４）会食（カレーライス）・懇談

平和な世界を作っていくために私達にできること

古志原小　６年　春木菜々子

私達６年生は「平和な世界」を作っていくために、私達にできることを紙ポ（紙芝居プレゼンテーション）にまとめ、発表しました。代表の３人はきちんと一人一人が平和な世界を作っていくために、堂々と意見や自分の考えを言うことができました。

武田栞奈さんは広島と長崎に落とされた原子爆弾をみんなに知ってもらうことが大切だと考え、本や絵やグラフなどを使い、発表しました。私はこの発表を聞き、本当にみなさんに原子爆弾のおそろしさを知ってもらうことが大切であることを改めて知ることができました。

鵜飼芽生さんは、私達にできることを分かりやすくまとめて発表しました。私はこの発表を聞き、戦争などでは兵隊や軍の人だけが苦しいのではなく、国民も苦しい生活をしているということが分かり、本当にこれからは戦争を起こしてはいけないということが強く心に刻まれました。

私は「思いやりの心を持つ」ことについて発表しました。私はカナダに行った時の経験を生かして紙ポを作りました。思いやりの心を持ち、たがいに助け合うことにより差別がなくなり、世界が平和になるということをみなさんに改めて分かっていただけるとうれしいです。

松江四中の地域活動について

松江四中生徒会　河野　　恋

先日の「里づくりシンポジウム」では小学生からヤング古志原の方まで様々な年代の方々の発表を聞かせていただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。いろんな方の話を聞いてみんなが地域のために貢献していることを知ってとても感激しました。小学生の発表も中学校で習うようなこともあり、すごいなぁと思ったし、南高生や工業高の生徒の発表は自分たちがどうやったら地域に貢献できるかを考え、実施し、反省するところまでしておられて自分もあんなふうにできるようになりたいなと思いました。

私たち四中生は、四中生徒会としての活動を発表させていただきました。今年度は輝（シャイン）というスローガンで活動し、生徒一人ひとりが学校内でも学校外でも輝ける環境をつくることが目標でしたが、校内外でのあいさつ、地域のおまつりへの参加など自分たちが地域の一員であることが自覚できるような活動ができていたと思います。

松工住まいいきいき隊の活動について

松江工高建築都市工学科　３年　**石原　知幸**

先日の「里づくりシンポジウム」に参加させていただきました。

建築都市工学科では課題研究のひとつに松工住まいいきいき隊があり、

①高齢者のお宅に伺い、普段出来ないような箇所の清掃や整備を行う。

②住まいをきれいにして、いきいき生活をお届けする。

③ボランティア活動を通じて、地域の方との交流を深める。

④私たちのコミュニケーション能力を高め、地域についての知識を得る。

この四つの目的をもって、高齢者の方の手の届かないところなどの箇所の清掃や整備を行う活動をしました。

高齢者の方のお宅の清掃では、大変な作業もあったのですが、高齢者の方に「ありがとう」とか「とても助かったよ」などの言葉をもらうと、すごくやりがいを感じ、疲れもどこかへ飛んでいくようでした。

様々な学校の方や、ヤング古志原の方がいろいろな活動をして地域に貢献されているのを知って、私たち松工住まいいきいき隊もより努力して活動しなければならないと実感しました。

また、会食・懇談では地域の方々とお話をすることができ、楽しい時間を過ごすことができました。

活動報告

松江南高ＪＲＣ部　部長　**山田　遥人**

JRCとはジュニアレッドクロスの略で「気づき」「考え」「行動する」を理念に活動しています。

「里づくりシンポジウム」では今年度行った松江駅や出雲市の神門通りでの募金活動やペットボトルキャップ回収運動、サマーチャレンジボランティアへの参加などについて発表しました。部員と協力して何とか上手くできました。他の学校やヤングボランティアの方の話を聞き、地域のためにさまざまな活動をされているということが分かりました。また、発表後の意見交換会では多くの方が積極的に意見を出しておられて、みなさんの古志原への愛を感じました。

古志原は他の地区と比べてとても活気ある所だと強く感じました。私たちも大人になった時、自分の地域を活気ある所にしていきたいです。

変　化

ヤング古志原　**岩﨑　辰海**

私が発表させていただいたのは、「変わる」ということである。ここで言う変化とは、その世の中の変化に対応して自分も変わるというごく当たり前のことである。

昨今、それを踏まえて挑戦する人は多くなっていると感じる。テレビやSNSの発展により、直接人に会わなくても刺激が得られるようなきっかけが倍増したからだ。実は、私もその中の１人であり、「挑戦」という言葉にとても魅力を感じている。実際、挑戦という選択をして後悔をしたことは一度もない。そして今回の発表の肝、なぜ後悔をしないかに繋がるのだが、挑戦中の過程で得るものがとても多いからである。得た「経験」に勝る材料などどこにも無いのだから。

次に里づくりのことについて、必要だと思うのは以下の五つである。新しい住人、定住、外貨、内貨、政策。つまり、住人を増やし、長く住んでくれる人を大切にしながら、観光などでお金を入れて、さらに地元が潤うよう、人とお金を上手く活用する行政と中小企業がいるということ。先ずは公民館を拠点にし、みんなが協力・結束し、話し合いの場を設けて、論を実際に行動に移すこと。今回の里づくりシンポジウムを次に活かすことが一つ目の目標だと思う。

第19回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　平成30年12月15日（土）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　小川　正）
3　テーマ　『みんなが住みよいまち古志原をめざして』
4　内　容　（１）あいさつ　野津明男　推進委員長
（２）実践・意見発表
①「平和な世界をつくっていくために わたしたちにできること」
古志原小６年生代表（３名）
②「生徒会の New Project 」　松江四中　生徒会役員
③「今年度の活動報告」　松江工高　JRC部員
④「今年度の活動報告」　松江南高　JRC部員
（３）意見交換
（４）会食（カレーライス）・懇談

あいさつ　野津明男推進委員長

平和な世界をつくるために自分のできること

古志原小　６年　**日野　果凛**

私は、全世界にたくさんの難民の方がいることを知ってもらいたい、という気持ちで発表をしました。

質問を受けて答えることができなかったのですが、私は募金をしたことはありません。けれど、学校で使うノートは買うと何円かが難民の方に届く、というものを使っています。

私は、難民の方が一人でも少なくなることをこれからも願っています。

古志原小　６年　**角　　遥太**

僕が皆さんに伝えたかったのは、世界には勉強をしたくてもできない子どもがいる、ということです。例えば、戦争や紛争など、僕たちからすると子どもたちには関わりのないようなことによって、学校に行けない子どもたちがいる、ということを伝えたかったです。

実際に発表してみて、皆さんがとても真剣に聞いてくださったことが、とてもうれしかったです。

古志原小　６年　**小林　優那**

私は、「平和な世界をつくるために自分ができること」を発表しました。

平和な世界をつくるためには、いじめをなくすことだと思い、いじめの内容や見た人について調べ、笑顔、協力、優しさが大事だということを発表しました。

地域の方々がたくさん参加されていて、しっかりと発表を聞いてくださったので、うれしかったです。

里づくりシンポジウムの感想

松江四中生徒会　**小野　　聖**

僕は「里づくりシンポジウム」に参加させてもらい、とてもうれしいことがありました。それは、僕達四中の発表の時に地域の方や、他の学校の方が真剣に発表を聞いて下さったことです。その時に、地域の方は、僕達の学校のことを真剣に知ろうとして下さっていることが伝わり、四中は地域に支えられているのだと感じました。

発表では、「NEW PROJECT」を題材とし、今年度の生徒会活動で始めた新しい活動について発表しました。僕達は、地域の方に四中のことを知ってもらうため、皆一生懸命に発表しました。

僕は、四中の発表の中で一番伝えたかったのは、「新入生歓迎会」でした。「新入生歓迎会」は、一番最初に作った新企画でした。思いの他楽しい会になり、生徒会役員としての自信も持てたし、新入生と在校生の間も縮まったと思いました。

今回、「里づくりシンポジウム」に参加させてもらったことは、とても貴重な体験でした。

松江工高JRC部　活動報告

松江工高　JRC部　部長　**若林　龍翔**

私たちは「里づくりシンポジウム」で、これまでの活動について発表しました。

私たちは、古志原ヒルズでのボランティア活動や、古志原ショッピングセンターなどでの募金活動、工業高校周辺の清掃や花壇の整備、地域のイベントのボランティアスタッフとしての活動を行ってきました。なかでも、工業高校周辺の清掃や花壇の整備では、古志原バス停前の清掃と校内の花壇の草取りを行いました。バス停前の清掃は景観を良くするためと、歩道を通りやすくするために行い、草取りは花や木の生育を良くするために行いました。現在は、本校電子科３年生の課題研究とコラボレーションし、バス停待合のベンチの整備を行っています。

このシンポジウムでは私たち以外にも、小学生や中学生、他の高校の発表を聞く機会があり、他の学校の活動を聞くことは貴重な機会だったので、私たちの今後の活動にぜひ活かしていきたいです。

また、意見交換の時間では、地域の方々がJRC部への感謝の気持ちを述べられ、とても嬉しかったです。

最近地域の方々と交流できる機会が減ってきているので、「里づくりシンポジウム」のような会がぜひ増えると良いと思います。そして学校と地域との交流を増やしていくと古志原地域の活性化につながると思いました。

松江南高校JRC部　活動報告

松江南高　JRC部　**高木ちひろ**

松江南高校は、今年度の活動報告と救急法の実演をしました。

活動報告では、今年度行った募金活動などのボランティア活動や、赤十字について調べたことなどを発表しました。救急法の実演では、心肺蘇生法と三角巾を使った包帯法の実演を行いました。今まで救急法講習などで教わった事を地域の方々に実際に見ていただき、知っていただく事が出来たので良かったです。

発表後、地域の方々からAEDの使い方が分かって良かったなどの感想やペットボトルキャップの回収箱の設置についてのご意見を頂きました。頂いたご意見は参考にしたいと思います。

里づくりシンポジウムでは、他の学校の発表を聞き多くの事を学ぶことができました。どの学校も地域と関わった取り組みをしていて良かったです。私たちも、もっと地域に貢献出来るような活動をしていきたいと思いました。

里づくりシンポジウムは地域の方々と町づくりについて話し合い、小・中・高生が地域と関わる事の出来るとてもよい機会だと思います。

第20回 古志原地区里づくりシンポジウム

1　日　時　令和元年12月14日（土）　10：00～13：00
2　場　所　古志原公民館集会室　　（司会　寺津豪佐）
3　テーマ　『みんなが住みよいまち古志原をめざして』
4　内　容　（１）あいさつ　北原則夫　推進委員長
（２）実践・意見発表
①「平和学習から」　古志原小６年生代表（３名）
②「生徒会活動について」　松江四中　生徒会役員
③「自分たちにできることを地域で見つけた」　松江工高　電気科３年（５名）
～電ボラ（電気で地域を元気にしたい！ボランティアねっと）の取り組み～
④「ラブリー古志原プロジェクト」　松江南高 JRC部員
（３）意見交換
（４）会食（カレーライス）・懇談

里作りシンポジウムに参加して

古志原小　６年　**三浦なつは**

私は里づくりシンポジウムで児童労働で苦しむ世界の子どもたちについて発表しました。

児童労働について調べていると、心が苦しくなりました。私が今、学校に通って勉強したり、友達と遊んだりしていることは、とても幸せなことなのだと感じました。私の発表で、児童労働はいけないことだと多くの人に感じてもらえたと思います。

みなさんが真剣にきいてくださったので、とてもやりがいがありました。

よい町にするために私にできることは何かを考え、行動していきたいと思います。

古志原小　６年　**野津　涼瑛**

僕は「世界では、人種や国籍、病気などで差別を受け苦しんでいる人がたくさんいる」ということを知ってもらいたいと思い発表しました。

高校生さんや地域の方々などたくさんの人が見てくださって、真剣に聞いてくださったので気持ちよく発表できました。

僕が発表したことによって、一人でも多くの人が、差別のない生活をすることができたらうれしいです。

古志原小　６年　**横川愛美利**

私はみなさんの発表を聞いて、地域のみなさんが古志原地区のために、今自分にできることを考え、進んで取り組んでいることが良くわかりました。

それに、うれしいことを聞くこともできました。それは、「古志原の子どもたちみんなが、あいさつをしてくれるからとってもうれしい」という声を聞けたことです。

これからも古志原小学校からあいさつの輪を広げていきたいです。

かけがえのない町だから

松江四中生徒会　**宇田川歩人**

僕は今回「里づくりシンポジウム」に参加させて頂き、思ったことが沢山あります。

まず一つ目は、いろんな学校の生徒が自分たちで自ら題材を考えてそれを一人一人が堂々と、そして「自分は古志原にこんなことを伝えたいんだ」という活気に満ち溢れながら、発表している姿を見て、自分も地域の一員として嬉しかったです。

二つ目は、地域の方は僕たちのことを思い、そして、愛してくれているのだと感じました。

シンポジウムでは、私たち松江四中生徒会は、今年度の活動報告をしました。その発表の途中、ふと前を見ていると、色々な表情で話を聞いて下さる様子がありました。「確かにそうだな」の顔。「へえーそうなんだ」の顔。ニコニコしながら聞いて下さっ

ている顔を見て、熱心に話を聞いていただき愛されていると感じました。また、日々の登校時では、いつも毎日、雨の日も雪の日も関係なく挨拶をしてくださる方々が沢山います。自分の通学路で言うと、香ノ木池の近くに立っておられるボランティアの方、古志原小の近くで挨拶をしているボランティアの方々に愛され、支えられて今があります。

最後にこの「古志原里づくりシンポジウムを終えて、より一層この古志原という町、地域の方々が大好きになりました。

松江工業高校「電ボラ」 活動報告

松江工高　生徒代表　**井山颯一郎**

私たちは、「電ボラ」という活動をしています。

「電ボラ」というのは、「電気で地域を元気にしたい！ボランティアねっと」のことで、授業の一環で行っている課題解決型学習です。

具体的には、学校周辺、特に古志原地区で、電気まわりのメンテナンスが難しいひとり暮らしの高齢者のお宅などを訪問して、電気にかかわる作業をしています。人とのつながりから、電気の知識･技能を磨いています。ボランティアねっとの「ねっと」は人とのつながり、仲間づくりを意味しています。校内外で私たちのことを、少しずつ「電ボラ」と呼んでもらえるようになりました。

「電ボラ」の主な作業内容は、電球・蛍光管の保守・清掃、エアコンのフィルタ清掃、配線の点検・工事、電化製品の使い方のお手伝いなどです。

依頼されたお宅に伺うといつも優しく声をかけてくださるので、安心して作業ができました。また作業後に、「本当に有り難う、助かるわ。友達にも紹介してあげたい」などと感謝されてかえって恐縮します。人や地域の仲間に加わり役に立つこと、技能を身につけることの大切さについて学ぶことができました。

また、シンポジウムでは、他の学校の発表を聞くことができて勉強になりました。意見交換では、地域の皆さんに話しかけていただき、活動についてさらに紹介できました。これからも多くの人に「電ボラ」のことを知ってほしいと思います。懇談会でごちそうになったカレーライスの味は格別でした。

里づくりシンポジウムに参加して

松江南高JRC部　生徒代表　**門脇　彩里**

松江南高JRC部は、今年度の活動報告を行いました。今年度は、松江南高がある古志原地区に重点をおいて活動を行いました。古志原地区に住んでおられる一人暮らしの高齢者の方に絵葉書を贈ったこと、こばと保育園での防災教育、防災マップづくりについて発表しました。特に防災マップづくりでは、古志原地区の方々から井戸とAEDの情報をお寄せいただき大変お世話になりました。今回の里づくりシンポジウムでは、井戸について新たな情報も得ることができ、これからの活動についての意見もいただくことができました。地域の方々の暖かさを改めて感じることができました。今後も防災井戸の認定やAEDの屋外設置、災害救援ベンダーの普及、一時避難所と指定避難所の連携について働きかけていきます。里づくりシンポジウムでは、他校の発表を聞き、刺激を受けることができました。いろいろな年代の地域の方々と関われる機会が減っているので得難い経験になりました。

１月８日には山陰中央新報に活動を掲載され、私たちの活動が広く知られるようになりました。一時は、古志原地区に点在する弘法大師像を頼りに、井戸を求めて地区の方々と触れ合う時期もありました。その後の調査で古志原地区に80基の井戸を確認し、そのうち防災マップへの掲載を快諾していただいたものは50基に上ります。ご協力ありがとうございます。

会食（カレーライス）・懇談

編集後記

◇「古志原地区里づくりシンポジウム20周年記念誌」の編集を終えた今、私たち編集委員はホッとした気持になっています。同時にとても満足感に浸っています。

◇本誌の編集に取り掛かったのは令和２年７月21日の第１回編集委員会であり、以後８月25日、９月３日、９月18日と合わせて４回集まり編集作業を行いました。各委員とも昼間は仕事がある関係で、会は夕方から始めました。全員でそれぞれが分担した所を充実させようと努力し、毎回２時間を超える作業となりました。でも、誰もが作業そのものを楽しみながらやっていました。このことに関して、山陰中央新報の「こだま」欄に掲載された記事を右上に載せておきます。

【2020年（令和２年）10月13日（火曜日）山陰中央新報より】

古志原住民の思いを一冊に

松江市古志原　中筋　弘充　80歳

私が住んでいる古志原地区では、20年ほど前から住民が健やかに暮らせる地域を目指して公民館主催の「里づくりシンポジウム」が開催されてきた。このたび20周年を迎えたのを機に記念誌を発刊することとなり、私たち7人が編集委員に委嘱され、第1回から第20回までの開催資料に目を通すことから作業を進めている。

そこには地区の古志原小学校、松江第四中学校をはじめ、古志原地区と積極的に関わってくれた湖南中学校、松江工業高校、松江南高校、松江農林高校の児童、生徒、教職員の皆さん、および地域住民の方々からの意見発表や実践発表の内容が記録されている。

これらの記録には、古志原地区の未来についての夢や希望が述べられており、読んでいるととても楽しくなる。

来年3月には、地域住民の方をはじめ、関係する多くの方々に興味深く読んでいただける記念誌を発刊すべく、7人は鋭意努力中である。

◇古志原公民館運営協議会会長の北原則夫様は、あいさつ文の中で、「この20年間に小学生からヤング古志原に至る若い世代の人たちから未来に向けた提言やメッセージがあった。彼らの声に耳を傾け可能な限り実現していくことが私たちの責任である」と述べておられます。

◇古志原公民館館長の松本祥一様は、あいさつ文の中で、「今後もこのシンポジウムが持続可能事業として発展していくために、20周年記念誌を未来への羅針盤として活用し、地域の皆様の知恵や情熱を頂戴して素敵な古志原の里を創っていきたい」と述べておられます。

◇以下に、編集委員一同からお礼とお願いを申し上げます。

① 経費の関係で本誌の総ページ数には制限があることから、各回の内容を２ページにまとめました。したがって、実践発表の内容や参加者の感想文などに割愛した部分があります。ご了承ください。

② ①と同様に本誌の印刷部数にも制限があることから、関係学校園あてには２部ずつ、諸団体、各区長及び各自治会長あてには１部ずつ配布することにしています。特に自治会長様にお願いですが、本誌を貴自治会（町内会）内に回覧等していただき、貴町内会のすべての皆様に読んでいただけるようご配意ください。時間はかかりましょうがよろしくお願いいたします。

③ 古志原公民館運営協議会会長様並びに古志原公民館長様には、玉稿を賜り有難うございました。

④ 有限会社高浜印刷様には、本誌の編集に際し適切なご助言を賜り有難うございました。

⑤ この「記念誌」を読まれた皆様が、古志原地区里づくりの発展のために、愈々ご活躍されますことを編集委員一同心から願っております。

編集委員一同

◆ 古志原地区里づくりシンポジウム20周年記念誌編集委員会

委員長　中　筋　弘　充（９区）
委　員　稲　垣　長　郷（３区）
〃　岡　田　志恵美（８区）
〃　小　川　　正（８区）
〃　門　脇　光　男（４区）
〃　佐名木　明　美（６区）
〃　藤　原　敦　子（公民館職員）

古志原地区里づくりシンポジウム　20周年記念誌

◇発行日　令和３年１月31日　　◇編集者　「20周年記念誌」編集委員会
◇発行者　松江市古志原公民館　　◇印刷所　有限会社　高　浜　印　刷
（松江市東長江町902-57 ☎0852-36-9100）